

野外保育に於ける保健に就て

愛育研究所員（小兒保健部）

平井信義

野外保育の在り方に就いては色々の問題がある。愛育研究所附屬の戸越保育所も本年五月に開設されたが、未だその施設がない爲に戸越公園一隅の藤棚の下で代用し、専ら野外保育を行つてゐる。もとより野外保育が目的ではないが七月に至る三ヶ月、保健に努力した經驗を述べよう。

健康管理の方法としては、健康教育、視診、診療、検便、各種豫防注射、體重測定、體格検査、環境及個人歴の調査その他、母の會に於ける衛生講話、パンフレット等を利用した。

一、**缺席に就て**、卅八名の幼兒に卅八回の保育であつたから延保育日數は一三九五日で、延缺席日數は一八・六%であつた。この中五五・八%は病氣以外の缺席によるから、病氣に限ると八・二%となり、而も年齢上昇に従ひその率も減少し第I表、無缺席者も十三名（三四・三%）もあり、健康保育としては成績良好であつた。之は野外に於て新鮮な空氣と日光の恩恵に充分浴し得たことが大きな原因だと思ふ。

暴雨による冷えが疾病の誘因になることが豫想されたが、

第I表

3才兒	4才兒	5才兒	平均
11.9	8.5	6.8	8.2

第II表

5月	6月	7月	平均
3.9	11.2	8.7	8.2

果して六月の雨期は病氣缺席が多くなつた。（第I表）

病氣以外の原因としては、嫌厭、家事の他の細雨で保育有無の判断がつかず缺席した日數が十七日あり、孰れも施設と大きな關連があつた。

二、**傳染病に就て**、八名の麻疹患者を出した。未羅患兒は既に一二名であつたから、2/3の羅患率となる。その八名中六名は殆ど同時の發生であり、同方面よりの通園兒であつたから、國外感染であり、他の二名は潜伏期を経て發生してゐるから國內感染が疑われた。初發時保母から至急連絡があつたので、直ちにパンフレットを作製し、麻疹の概念や豫防法、手當法などを記して家庭に配布し注意を促したので、八兒とも輕症に經過し殊に血清注射をした一名は輕症であつた。斯うした點保母は非常に積極的で眞剣であり、各家庭に

よく連絡し、一人でも犠牲を少く輕症に熄らせ様とした努力の賜であつた。

耳下腺炎、水痘、デフテリー疑似があつたけれど之も保姆が極めて初期に發見隔離した爲、難なく褪消した。之ら保姆の保健に對する積極的關心と併行して、傳染病防遏の效が表れることが痛切に感ぜられた。

又、總員に對しツベルクリン反應を行い、三名の陽性者を發見し、彼等が同一アパートに居住してゐることを知り、直ちに感染源を追求すると、その中の一幼児の父親であつたから、その家族に對し注意を發し、陽性児にはレントゲン検査血沈検査を行い、異常ある二名に安靜を命じその経過を監視した。如何なる形式の保育に於ても斯かる方面に確實な豫防處置をしておかぬと大きな犠牲を生ずることになり、従つて保育に支障を來すから、必ず醫師との連絡が必要であると感じた。

殊に衛生思想の低い地域の保育では、家庭で無思慮に患兒を登園させるので、保育者は寸時も油斷出來ず、本保育所では保姆が神經質な程配慮を重ね、検診には母親を誘ひ、家庭訪問や母の會を通じて理解と連絡を得ることに苦心したのは大いに意義のあることであつた。

傳染病に關して野外保育の缺點は、園兒以外の子供達が園籠或は介在し、又は滑臺その他遊び道具を共にすること、その點にも大いに警戒にとめたが、保姆は園兒を統括することに苦心が要り、個々の活動への注意が粗略になり勝てあ

つた。この學期はその災害に遭わなかつたけれど、將來尙危険を藏してゐる。然し園内に發生した傳染病は幼稚園保育より傳染し難し利點も感ぜられた。

三、健康教育と毎朝の視診に就いて。健康教育としては、次のことが實行できる様に指圖した。(イ)洗顔、齒磨、口嗽が自分で出来る様に。(ロ)合嗽、手洗の習慣、(ハ)爪切(ニ)排泄の正しい躰、(ホ)食事のよい習慣(ヘ)着衣下足の着脱整頓。

視診は主として毎朝登園時に行ひ、次の要點を觀察してその成績をa、b、cで採點記載し、その結果により教育指導を繰返す様にした。(イ)服装の清漫度と着衣方法(えぶるん、はんけち或は手拭、肌着、下着とズボン、靴下、靴)(ロ)身體の清潔度(顔、頭、齒、鼻、目、耳、手、爪、膝と足)

之らには醫師一、保健婦一が毎週一回、他は保姆三名が擔當したのであるが、研究に資する詳細な記録が得られなかつたのは甚だ遺憾であるが、その理由は一つには野外で視診の場處及時が思ふ様に得られず、二つには子供らの集會が散慢で保姆はその統率に忙しく、記載の暇がなかつた爲で、致し方なかつたがこの點施設を有する幼稚園の方がよい。

然し次の結果を綜合することが出來た。

(一)常に身體服裝共清潔である者と不潔な者が割然として居り、洗顔を怠る者も度にあつた。爪と耳の清潔は極め

て悪かつた。又下足は殆ど下駄で、遊戯中脱ぐ者が多かつた。

(2) 用便は糞にする者多く、注意は繰返したが便所が遠かつたり、公衆便所が極めて不潔で、止むを得ぬことも屢々であつた。従つて用便後の手洗も實行が容易でなく、保母は二、三時間置に總員を便所に連れてゆき女兒には一々紙を渡し清拭させ、後手洗を實行させ、園児もよく之に従つたが、水道栓も高く、女兒便所が危いため男兒便所とさせるなど不便は大であつた。

(3) 食前の口嗽ぎや手洗も全然設備なく、水源も遠く、バケツで水を運ぶ努力は大きく、バケツによるも却つて不潔で、消毒液も利用する機會が少かつた。食事時、風があると塵芥が立ち、食後の休養場處なき爲、直ちに運動を開始するなど、初期の目的に沿わぬことが多くあつた。

以上により、保健教育は仲々困難であり成果に乏しかつたが、保母の注意が絶えずかうした方に向いていて不便があるのと工夫改良する努力が絶えずなされたこと、又子供らが楽しんで通園するのは、一つにはこの様な習慣を知る興味があることと感ぜられた。然し殊にこの地區の家庭衛生狀況及び衛生思想は薄弱であるから、之らの教育指導が家庭に迄延長する爲には今後の研究と大いなる努力が重ねられねばならぬ。

四、視診による疲病の發見に就て。(イ) 血色、顔貌、運動、(ロ) 咳嗽、鼻汁、咽頭發赤、ふき出、その他を視診することににより、(ハ) 傳染性疾患の早期發見(前述)(ニ) 外傷などの早期手當、(ホ) 疾病の早期治癒、に非常に役立つ。異常を發見すると保母は直ちに醫師に連絡したので、應急對策も迅速に出來た。

五、體重の月例測定に就て、保育過重の有無や疲勞、覆面の疾病を察知する目的で月二回の測定を企てたが、秤に不便な爲月一回に己むなきに至つた。

(イ) 開園當初と一ヶ月目、(1) 増加 1/3、減少 2/3、性別には著變がない。(2) 減少の原因は新生活に對する心身の負擔、季節的關係、後に檢出された腸管寄生虫が考えられた。

(ロ) 二ヶ月目、(1) 減少と不増が七割、(2) その原因は六月より急増した疾病(麻疹その他) 季節、寄生虫など、以上一學期に於ける體重増加は不良であつたが、不便と多忙の中に保母の熱心な協力があつて、斯かる生體の把握が出來たことは喜ばしい。特に野外保育の影響は認められなかつた。七月上旬驅虫法を講じ、秋と云ふよゝい季節の二學期には體重が増すことであらう。更に保母たちと、保育の負擔、疲勞、その他の要素を檢討しながら健康保育を續けたい。

六、身體測定に就て。身長、胸圍、頭圍その他の身體測定

を行つた。詳細は省くが八割は普通の體格であり、殊に三歳兒に上位の者が多かつた。之ら測定に當り、保母は自ら測定器具の取扱ひを覚え、巧みに子供らを誘導して測定は首尾よく行われ詳しいデータが得られた。

七、疾病豫防に就て。B・C・Gチフテリ及び百日咳の豫防注射、檢便及び驅虫（檢便では總員に蛔虫卵がいた）を行い、毎週一回の檢診は異常者のみを行い投薬して大事を防いだ。公團故、診察中人だかりがして困つたが、出来る限り慎重な診療に努力し効果があつた。

八、その他のこと「既往状態」に關し生下時體重、妊娠中母體の状態、既往榮養、既往傳染病、及疾病、羅病傾向、の調査。「日常生活」に關し、偏食、間食、食慾、腹痛、睡眠體位、夜尿、神經質、保育嫌厭兒などの相互關係の調査。「家庭の環境衛生」として住宅の調査を行い家族一人當り〇・五疊の家庭もあり、日光、採光、溫度など前述の結核兒の آپパトが惡條件を備えていることを知つた。その他「父母同胞などの家族歴」も調査した。

之らには特に野外保育の特長がなかつたから別の機會に報告する。が之らの調査に當つて親しく家族と語り、或は様子を探知して眞實を報告得たのは保母に負ふ處大であつた。

要之、健康保育は施設を伴はなければ不可能であるかどうか、試案としてこゝ一學期實際に行つてみた譯であるが、醫

師や保健婦の協力があればこの程度のごとは可能であることが判つた。この中保母自身の力で實行出來た項目は、健康教育、視診、體量測定、體格検査、及各種調査であり、従つて醫師の協力はなくとも指示さえあれば農村の季節保育所でもこの程度の事は可能とみられる。

勿論村或は保健所の保健婦は全面的に協力する努力を惜んではならぬ。

(十八頁より續く)

それをどう引つばつてゆきませうか。

汽車にちなんだのをしてもよろしいですが、汽車にのつて行くと、退屈なのか賣子の賣りに來る繪本をよみます。それをとらえ汽車の中の退屈しのぎとお話に変えたら實に自然に行くでしょう。驛長さんも機關手さんもよつて來るかもしれません。

唱歌は汽車の唱歌、まゝことの歌、自然に歌い出され或ものは汽車にのつてうたつていでしよう。今度はそれを歌うのみでなく、リズム遊びに轉じて、皆が汽車になりリズムに併せて走つたり、歩いたりします。

又一つの短いお話をリズムに併せ動作にさせても面白いでしょう。既習の唱歌もその適した所に入れてやれば又變つた味でもあります。